

ふるたかまつ通信

【コミねっと高松】<http://www.takamatsu.genki365.net/>にて情報を公開しています

JR屋島駅は大正14年に開業して以来、たくさんの人と物資を運んできました。時代の変遷とともに利用者も少なくなってきましたが、今でも、古高松にまつわるいろいろな情報が残るスポットです。



跨線橋より見た駅構内

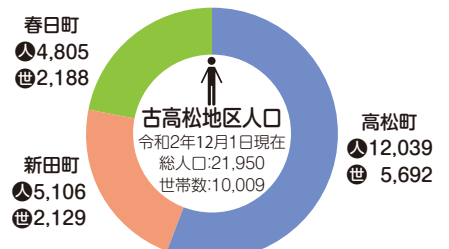


JR屋島駅⇄屋島山上
シャトルバス運行中!



JR屋島駅改札口

トピックス 地域コミュニティって?	2~3P
特集「古高松のあれこれ」パート⑨	4~5P
コラム・古高松豆知識⑧	6P
備えあれば憂いなし③	7P
お知らせ	8P



※総人口は、前年同月より90人増えました。

(^^) ご家族の皆さままでご覧ください (^^)/

トピックス 地域コミュニティって？

世の中が便利になり、昔ながらのご近所づきあいは少なくなってきました。しかし、「いざ」という時に頼りになるのは、やはり顔の見える人とのつながりです。平日頃から「顔の見える」近所づきあいをしていれば、災害が起こっても一緒に支え合えます。

まずは、地域へ出かけましょう。イベントやお祭りに参加して、おしゃべりしましょう。実際に会うことで得られるものは、ネット社会と比べものにならないほど、大きな価値があるかもしれません。

いつの時代も私たちにとって「誰かとつながっていること」は、とても大切なことなのだと思います。そんな人と人をつなぐのが地域コミュニティです。つながった輪はどんどん広がっていきます。誰かとつながるって、結構楽しいですよ！

高松市の地域コミュニティは？

高松市には、概ね小学校区ごとに、地域コミュニティ協議会（市内に44地域）があります。自治会をはじめ、子ども会・婦人会・老人クラブ・交通安全母の会・体育協会・消防団・市民活動団体など自主的なまちづくり活動をしている住民組織や、その地域に住む人や団体で構成されています。また、その地域に通勤・通学している人も含まれます。

みんなが安全・安心に生活でき、住みよいまちになるよう、様々なアイデアを出し合い、協力しあって活力ある地域を盛り上げています。



どのような活動をしているの？

ふれあい祭りの開催・防犯パトロール・子どもや高齢者の見守り活動・防災訓練・環境美化活動・コミュニティセンターの管理運営など、地域に関わる様々なことに取り組んでいます。

コミュニティセンターとは？

元々は高松市が小学校区ごとに設置した地区公民館です。コミュニティ協議会の設立に合わせて平成18年以降、全ての地区公民館が、まちづくり活動の拠点施設としてコミュニティセンターに移行されました。

現在、市内に52館（古高松地区は2館）あり、地域コミュニティ協議会が指定管理者になって施設の管理・運営を行っています。コミュニティセンターにはコミュニティ協議会の事務局が置かれ、地域住民の交流の場・学びの場として、行政や自治会をはじめとした各種団体と連携を取りながら、まちづくり活動が円滑に行えるよう、調整役・パイプ役を担っています。

転入者から居住地の自治会を尋ねられたり、加入の相談を受けたりしたときなどに、自治会長とのやり取りをすることもあります。



古高松コミュニティセンター



古高松南コミュニティセンター

|| ケーブルTV や ネット で配信中! ||

地域コミュニティの中でも中心的な役割を担っているのが自治会です。生活に密着した様々な活動を行っており、一人の声では届かないことも自治会で要望して実現することもあります。地域の皆様には、ぜひ自治会の活動を知っていただき、ご協力いただければありがたいです。

自治会では、どんな活動をしているの？

安全・安心のまちづくり

暗い夜道でも安心して歩けるよう、自治会が市の助成金を活用して『防犯灯の新設や維持・管理』を行っています。警察などと連携して、パトロールなどによる『防犯活動』や、子どもたちの登下校を『見守る活動』を行っています。災害時、ご近所同士の助け合いがスムーズにできるように、『自主防災組織』を作り、防災訓練などを行っています。



地域行事への関わり

地区運動会やお祭りなど、様々なイベントの開催に協力し、地域のお年寄りから子どもまで気軽に『交流する機会』を持っています。



きれいで快適なまちづくり

衛生組合と協力して、『ごみステーションの維持・管理』を行っています。河川・道路など地域の清掃活動を行い、暮らしやすい清潔なまちづくりに努めています。地域の施設が快適に利用できるように、『公園などの維持・管理』に協力し、まちの美化を進めています。



地域情報の提供

まちづくりの情報を掲載した『情報紙』などの配布や、イベントなどを回覧でお知らせしています。



支え合いの活動

私たちの住む町には、お年寄りや障がいのある人、子育て中の人など、暮らしていくのに助けが必要な人たちがいます。みんなが暮らしやすくなるよう、みんなで助けあう。それが『赤い羽根共同募金運動・地域歳末たすけあい運動』です。

地域ではいろいろなボランティア団体が活動しています。その活動に必要なお金を1人で出すのは大変なことですが、みんなで少しずつ寄付すれば、より多くのお金が集まって、たくさんの方が活動にかかわることができます。

また、ボランティア団体が独自に募金活動をする時、どこへ寄付すればいいか迷ってしまうので、共同募金会が「共同募金」としてまとめて、必要なところに助成しています。

皆様からいただいた募金は、地域福祉や災害支援活動など、あなたの町の小さな「困ったこと」に使われています。古高松地区では、自治会を通じて募金をお願いしていますが、個人の募金も受け付けています。



● いざという時には、ご近所さん! ●

1.17阪神淡路大震災・3.11東日本大震災、その日町を守ったのは、自治会の団結力でした。自治会がいち早く避難所を開設し、夜通し人々の支援にあたりました。日頃から、いざという時に備えていたからこそできた迅速な対応です。

直下型地震が起こったとき、行政による支援の手が届くのは、およそ24時間から72時間後と言われています。災害発生直後に起こりうる交通網の麻痺、ライフラインの断絶、情報の混乱。その時、あなたはどのように家族を守りますか？

“いざ”という時のために、自治会は地域の安全・安心のために日々努力しています。自治会の最も重要な役割は「会員同士をつなぐこと、顔の見える関係を作ること」です。地域の防災訓練やイベントに参加することで、地域の方たちと助け合う関係を築くことができます。そのときに備えるため自治会に参加して、いつもの暮らしに安心を持ちませんか？



自治会の支え合いが地域の絆をつないでいます。
地域の「あたりまえ」を自治会が支えています。

「古高松のあれこれ」パート⑨

古高松と水 第1回 上水

私たちの生活とは切っても切れない「水」。昭和49年に香川用水が通水するまで、高松市は「高松砂漠」と言われるほど、水に悩まされ続けてきました。そこで今回は、古高松の上水について調べてみました。

参考文献
「古高松郷土誌」「古高松郷土誌II」「高松市水道史」

① JR屋島駅前の井戸 (高松町帰来)

上水道が整備される前、井戸は貴重な飲み水の水源でした。津ノ村地区や帰来地区は、井戸を掘るスペースが少ないため井戸の無い家もあり、共同の井戸や近所からもらい水をしていました。

JR屋島駅前の井戸は当時の名残り、当時小学校帰り子どもたちが、この井戸の水で喉を潤していたそうです。*現在は飲みません。



JR屋島駅前の井戸



JR屋島駅前

② 屋島地区簡易水道

屋島地区では、昭和 21 (1946) 年に発生した昭和南海地震により地盤沈下が起こり、それまで飲料水として使われていた井戸水に塩分が含まれるようになったことから、上水道の整備が急務となりました。

当初は、既設の高松市上水道と接続することを検討していましたが、距離が長く財政的に早急には実施できない状態にあったので、単独の簡易水道を整備して当面の飲料水を確保することにしました。

この簡易水道は昭和 27 (1952) 年に完成し、古高松地区と屋島地区に給水していました。その後、昭和 32 (1957) 年に高松市上水道と接続し、昭和 40 (1965) 年には新川浄水場として拡張整備されましたが、早明浦ダムや香川用水が完成した後の昭和 50 (1975) 年に、その役目を終えました。

③ ガラ漉 (新田町甲2538-3)

新田町本村地区に「ガラ漉」と呼ばれる池があり、久米池の下池として地域の農業用水として活用されていました。冬場ともなれば、4~5年毎に池底の汚泥を周囲の田圃に入れて乾燥し、客土として返す「干し揚げ」という行事が地域の若者の手によって行われていました。その土は肥やしとしてよく効くので、それを入れた田圃で収穫されたコメは、一等米として阪神方面に売られていました。また池の周囲には1m余にもなる葦(あし)が生え、それを刈って牛に与えていました。四季折々には、池で魚を釣ったり、夏ともなれば、食用カエルの鳴き声がにぎやかに響いたり泳いだりと、住民の楽しみのある場でもありました。

「ガラ漉」は、香川用水の通水とともにその役目を終えましたが、跡地は、「何か後世に残る場所。健康づくり、ふれあいの場所」としてはという意見が出て、行政に依頼して運動公園にしようとなつてきました。

しかし地形が細長く変形しているため、公園としては使い勝手が悪いので、地域の関係者と協議し、周囲の土地と交換分合することで、ほぼ長方形の利用しやすい土地となり、昭和61 (1986) 年新田公園として整備されました。



新田公園



④⑤⑥ 高松町の3つの泉

高松町は、古来海際であったため、井戸を掘っても塩気の水が出ていました。そのため、真水の出る井戸はとても重宝され、津ノ村、帰来、地部谷と、高松町には3つの大きな泉があったと伝わっています。このうち地部谷の「荒神(こうじん)泉」は屋島ハイツの住宅開発とともに道路用地として埋められてしまいましたが、「荒神泉」の近所の井戸では、今でも豊かな水が湧き出ています。



④津ノ村の「鍛塚泉」付近



⑥地部谷の「荒神泉」付近

⑦ 川添浄水場 (東山崎町1331)

現在、古高松地区で使われる上水(水道水)の大部分は、東山崎町にある川添浄水場で作られています。

高度経済成長期に急増した水需要を賄うため、昭和 42 (1967) 年に給水を開始した川添浄水場は、春日川の表流水と新川の伏流水を急速ろ過方式で浄水しており、最大で1日当たり30,000 m³の給水能力があります。

なお、平成 30 (2018) 年4月より、直島町を除く県内全域の水道事業を香川県広域水道企業団が担っており、川添浄水場は、同企業団の高松ブロック統括センターが管理しています。



川添浄水場 ※写真提供:香川県広域水道企業団



JR屋島駅は、大正14(1925)年に高徳線の高松から志度間が開通した時に開設された駅で、引き込み線を含めると4本の線路があります。

昭和39(1964)年の東京オリンピックの頃は、屋島への観光客の他に木材や庵治石などたくさんの物資を貨物列車で出荷し、大変賑わっていました。駅の一番南の引き込み線は、この駅が昔賑わっていた頃の名残りです。また、駅の南側には国鉄子会社の木材工場がありました。

近年は、屋島への観光客の減少や貨物列車の衰退により、駅周辺の賑わいが失われています。そこでJR四国と古高松地区コミュニティ協議会は、「JR屋島駅盛り上げ隊」を結成し、駅の活性化や駅周辺の環境整備を行っています。



昔のJR屋島駅 ※写真提供 高松市歴史資料館



今のJR屋島駅

古高松豆知識 ⑧

★古高松のレシピ

葉ごぼうの炊いたん

葉ごぼうは、柔らかい軸(葉柄)と若い根を食用にする、古くからの特徴的な香川県の春を呼ぶふるさと野菜です。

葉が柔らかい時期や筋張って少し硬い時期があるなど、収穫時期により味が変わります。硬い時期にはタンサン(重曹)を加えて下ゆですることにより、柔らかく、また見た目も鮮やかになります。

葉ごぼうは和え物、天ぷら等いろいろな料理に使われますが、なかでも煮物(炊いたん)はその代表的なレシピです。

- 材 料
- ・葉ごぼう…… 200g
 - ・油揚げ……… 1枚
 - ・出し汁……… 200cc
 - ・みりん……… 大さじ1
 - ・酒……… 大さじ1
 - ・砂糖……… 大さじ1
 - ・薄口醤油…… 大さじ1と1/2



つくりかた

- ①葉ごぼうは、葉を切り落として、軸と根を切り分ける。根は包丁でひげ根をこそげ落とす。軸と根を3~4cmの長さに切る。
- ②油揚げは、短冊切りにする。
- ③鍋に、①②と出し汁、調味料を入れ、葉ごぼうが柔らかくなるまで煮る。

★自治会の由来

「小こやま山」

現在は、平地となっていますが、昔は小さな山があり、古墳があったとの記録も残ります。

油絵「小山の風景」の裏書きによると、昭和34年から36年にかけて畑地を掘り下げ平地とし、その大量の土は、屋島塩田の埋め立てに使われたとのことです。

(参考:古高松郷土誌II)



備えあれば憂いなし ③

道を歩いたり車で走っていたりすると「これって何のため?」と疑問に思うことはないですか? そんな身近な疑問について、調べてみました。

参考:香川県土木部道路課HP

Q 道路にあるポールに貼ってある表示の意味は?

A 津波被害を軽減するための対策の一つとして、県が管理する道路の沿岸部を中心に、道路脇の案内標識や照明灯の支柱に「海拔表示シート」を設置しています。(古高松地区には高松町に3カ所・春日町に3カ所)

また、「海拔知〜る」というものもあり、これは海拔5m以下の国道・県道が対象で、市町道への設置も呼びかけています。過去の浸水被害などを考慮しつつ、おおむね1km間隔で、標識や歩道橋の柱など強度が高く人目に付きやすい場所にあります。

どちらも津波から避難する時の目印になり、平常時から地域の海拔を知る目安となります。また、津波が発生した場合には、津波高の測定など被災後の迅速な被害状況の把握にもつながります。南海トラフ地震では、古高松に最大4mの津波が来ると予測されています。いざという時に的確に避難できるよう、近くの「海拔知〜る」などをチェックしてみましょう。

なお、「海拔表示シート」は防災にかかわる表示であるため、外国の方々にも理解いただくため、「Above Sea Level(海拔)」と英語表記を併記しています。



Q アンダーパスの色分けの意味は?

A アンダーパス(くぐり抜け式通路)には、流れ込んだ雨水を道路外に排出するためのポンプ施設等がありますが、降雨量がポンプや排水路の排水能力を超えた場合や、ゴミ等による目詰まりを起こした場合に冠水が発生します。こうした箇所では、周辺地盤より低いため、相当な深さで冠水する恐れがあります。

県が管理する道路のアンダーパスは、車両冠水等の事故を防止するため、表のとおり、路面及び側壁へ着色や電光表示板で注意を喚起する対策を行っています。また、降雨時に冠水する危険性があることを日頃から通行者に知らせるために、アンダーパスの手前に注意看板を設置しています。

注意項目	路面及び側壁の着色	電光表示板の表示内容	条件
通常水位	青色	なし	最深水深0~5cm
注意水位	黄色	路面冠水 通行注意	最深水深5~15cm
通行止め水位	赤色	路面冠水 通行止め	最深水深15~50cm
凍結注意	—	凍結の恐れ 通行注意	気温が3℃未満のとき

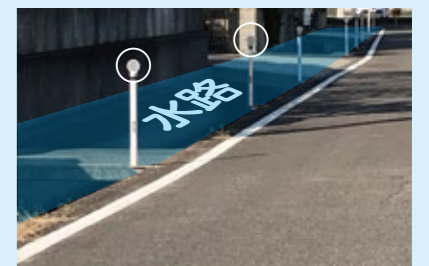
車は水深が30cmぐらになると、エンジンが止まったりドアが開かなくなってしまうことがあります。豪雨などで道路が冠水している場合は、進入しないようにしましょう。

Q 水路際等にあるポールは何のため?

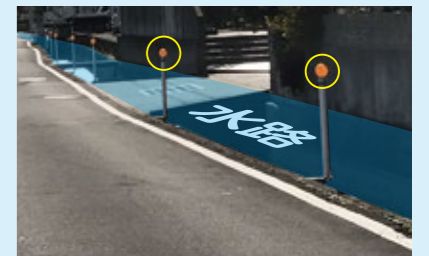
A 視線誘導標(デリニエーター)と言い、車両の運転者に道路の線形等を分かりやすく表示する目的で設置されており、白色と橙色の種類があります。

視線誘導標が水路際に立てられている場合、白色が見えていれば右側が道路(写真①)、橙色が見えていれば左側が道路(写真②)になります。道路が浸水して水路との境目がわからないときは、この視線誘導標が頼りになりますが、そのようなときは道路に近づかないようにしましょう。

普段あまり意識することもなく、当たり前のように存在している視線誘導標ですが、役割を認識して、安全運転を心がけましょう。



写真①



写真②

いざという時のために、日頃から少しずつでも備えておきましょう。

お知らせ

コミュニティセンターでは安全・安心にご利用いただくために
新型コロナウイルス感染症拡大防止対応をお願いしています。

- (1) 施設利用中はマスクを着用し、咳エチケットを徹底する。
- (2) 発熱や風邪症状のある者は参加しない。
- (3) 代表者は、参加者の連絡先を把握しておく。
- (4) 最低限、人と人が接触しないよう、間隔(利用状況によっては1m以上)を確保する。
- (5) こまめに手指用のアルコール消毒液等の使用や手洗いをする。
※利用終了後は使用した備品(机・椅子)は消毒作業をする。(消毒液はコミュニティセンターに設置)
- (6) 利用中は定期的な換気を実施し空気を入れ換える。※30分に1回以上
また、利用人数につきましても、制限しております。皆様のご協力をお願いします。
ご不明な点がありましたらコミュニティセンターまでお問合せください。



令和二年 年度表彰

全日本交通安全協会会長表彰 (交通安全功労者) 森田光男
中国四国管区警察局長・四国交通安全協会会長表彰 (優良運転者) 山田利行
香川県交通安全県民会議会長表彰 (交通安全功労者) 織田道德 (交通安全功労団体) 古高松地区老人クラブ竜王喜楽会
香川県警察本部長・香川県交通安全協会会長表彰 (優良運転者) 久保洋
高松市環境美化推進運動功労者表彰(個人) 池内延次 村井浩治
高松市公園愛護会連絡協議会功労者表彰 岡春男
高松市共同募金委員会会長表彰 植田仁(上原自治会) 池田義行(西新開第一自治会) 織田隆雄(公文南自治会) 藤川茂(八反地自治会)
高松市共同募金委員会会長感謝状 岡田守浩(屋島ハイツ自治会) 山下達夫(公文北自治会)



プレゼントクイズ

アンダーパス(くぐり抜け式通路)は、何cm以上の冠水になると通行止めになる?

- ① 15cm ② 30cm ③ 50cm

【応募方法】※ご記入いただいた個人情報は、当選の連絡以外の目的では使用しません。
必要事項①クイズの答え ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤広報誌「ふるたかまつ通信」の感想
をご記入のうえ、各コミュニティセンターへ持参、FAX、Eメールにてご応募ください。
締め切り:2月28日(日)

※当選者の発表はプレゼントの発送(3月末頃)をもってかえさせていただきます。
※前回(30号)の答えは「①水路の見回りに行く」でした。

《地域の情報お寄せください!》

広報誌に掲載する情報を募集しております。
古高松のあんなことやこんなこと、ご意見・ご要望など何でも構いません。
古高松・古高松南コミュニティセンターまでお気軽にどうぞ~

《問い合わせ先》※クイズの応募もこちらへ

- 古高松コミュニティセンター 高松町10-20 Tel&Fax:087-841-6262
E-メール:furutakamatucc@md.pikara.ne.jp
- 古高松南コミュニティセンター 春日町782-2 Tel&Fax:087-841-2186
E-メール:furutakamatumi-c@md.pikara.ne.jp



仕出し・料理(折詰等)承ります!!
高松市高松町2594
☎841-9667・843-2977 FAX841-0123

瀬戸内季節料理 魚夏 様より提供!
応募いただいた方の中から抽選で20名の方に
食事券(500円分)をプレゼントします。

豆記者募集

地域の方たちと一緒に現地取材して、原稿を書いてくれる小・中・高校生の「豆記者」を募集しています。
興味のある方は、古高松コミュニティセンターまでご連絡ください。

高松市役所古高松出張所の御案内 Tel&Fax 087-841-6261

古高松コミュニティセンター内には、高松市役所出先機関の「古高松出張所」が併設されています。各種行政手続きなど、市民の方の身近な窓口として御利用いただけます。

業務の内容など、詳しくは出張所まで直接お問い合わせください。

編集後記

JR屋島駅前の井戸が、かなり昔からあるものだったことに驚き、私が生まれる僅か前まで、水に苦勞していたことを再認識しました。

